

ミサを通して神を学ぶ～新しい式次第とともに！

第6回 父と子と聖霊である神

ミサの初めに、わたしたちは司式司祭が唱える「父と子と聖霊のみ名によって」に合わせて十字架のしるしをします。そして、ミサの結びでは「父と子と聖霊の祝福」をいただいて派遣されていきます。また、「父と子と聖霊」に直接は言及していないものの、ミサの式文には父と子と聖霊である神への信仰を表明する内容が含まれています。

ふだんから慣れ親しんでいるミサの式文を、聖書と教会の教えに基づいてあらためて味わい、復活祭前の祈りと黙想を深める機会といたしましょう。

1. ミサの中で「父と子と聖霊」を意識していますか？

ミサの初め「父と子と聖霊のみ名によって。」

ミサの結び「全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように。」



ことばを意識せずに機械的・形式的になっていないでしょうか？

聖務日課の各時課の冒頭や詩編の結び、福音の歌（ザカリアの歌・マリアの歌・シメオンの歌）の結びなどの栄唱「栄光は父と子と聖霊に。初めのように今もいつも世々に。アーメン。」も

2. 「ミサの式次第」の中での「父と子と聖霊」

①十字架のしるし

司祭 父と子と聖霊のみ名によって。

会衆 アーメン。

聖書の参照箇所

マタイ 28・18-20「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を受け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

第2 バチカン公会議前…司祭が祭壇に向かってすべてを唱えていた。



第2 バチカン公会議後…司祭が会衆に向かって「父と子と聖霊のみ名によって」を唱え、会衆が「アーメン」と応唱する対話形式に。

②会衆へのあいさつ

司祭 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

聖書の参照箇所

二コリント 13・13「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。」

第2 バチカン公会議後に加えられた、パウロの手紙に基づく新しいあいさつ。

「父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が皆さんとともに」も同様（ローマ1・7、一コリント1・3、二コリント1・2、ガラテヤ1・3、エフェソ1・2、フィリピ1・2、二テサロニケ1・2、フィレモン3）。使徒時代から続くキリスト者のあいさつの伝統的表現。

「司祭はあいさつをして、集まった共同体に主の現存を示す。このあいさつと会衆の応唱によって、ともに集まった教会の神秘が表される」。（「ローマ・ミサ典礼書の総則」50）

③栄光の賛歌

天には神に栄光、

地にはみ心にかなう人に平和。

神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

わたしたちは主をほめ、主をたたえ、

主を拝み、主をあがめ、

主のたいなる栄光のゆえに感謝をささげます。

主なる御ひとり子イエス・キリストよ、

神なる主、神の小羊、父のみ子よ、

世の罪を取り除く主よ、いつくしみをわたしたちに。

世の罪を取り除く主よ、わたしたちの願いを聞き入れてください。

父の右に座しておられる主よ、いつくしみをわたしたちに。

ただひとり聖なるかた、すべてを越える唯一の主、イエス・キリストよ、

聖霊とともに父なる神の栄光のうちに。アーメン。

聖書の参照箇所

【全能の神・全能者】創世記1・17「主はアブラムに現れて言われた。「わたしは全能の神である。」、出エジプト6・3「わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れたが、主というわたしの名を知らせなかった。」、黙示録11・17「今おられ、かつておられた方、全能者である神、主よ、感謝いたします。」など。

【父のひとり子】ヨハネ1・14「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」、同1・18「父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」、同3・16「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」など。

「栄光の賛歌（グロリア）は、きわめて古い尊ぶべき賛歌であって、聖霊のうちに集う教会は、この歌をもって父である神と小羊に賛美をささげ、祈る」。（「ローマ・ミサ典礼書の総則」53）

④集会祈願の結び

司祭 聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、世々とこしえに生き、治められる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。

会衆 アーメン。

「教会の古くからの伝統に従い、集会祈願は通常、聖霊において、キリストを通して、父である神に向けられ…」（「ローマ・ミサ典礼書の総則」54）

⑤信仰宣言

わたしは信じます（Credo）。

ニケア・コンスタンチノーブル信条

わたしは信じます。唯一の神、

全能の父、天と地、見えるもの、見えないもの、すべてのものの造り主を。

わたしは信じます。唯一の主イエス・キリストを。

主は神のひとり子、すべてに先立って父より生まれ、

神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神、

造られることなく生まれ、父と一体、すべては主によって造られました。…

わたしは信じます。主であり、いのちの与え主である聖霊を。

聖霊は、父と子から出て、父と子とともに礼拝され、栄光を受け、

また預言者をとおして語られました。…

使徒信条

天地の創造主、全能の父である神を信じます。

父のひとり、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。…

聖霊を信じ、…

『カトリック教会のカテキズム』より

189 最初の「信仰宣言」は洗礼のときに行われます。「信条」は何よりも洗礼用の信条なのです。洗礼は「父と子と聖霊のみ名によって」(マタイ 28・19) 授けられるので、洗礼の際に宣言する信条は、三位一体の神の三者に関して、それぞれ区切って述べられます。

190 したがって、信条は三部分に分けられます。第一に、神の第一のペルソナ(御父)と創造の感嘆すべきわざについて、次に、神の第二のペルソナ(御子)と人間のあがないの神秘について、最後に、わたしたちの聖化の泉、根源である神の第三のペルソナ(聖霊)について。これがわたしたちの(洗礼の)刻印の三つの部分です。

⑥ 奉献文の栄唱

司祭 キリストによってキリストとともにキリストのうちに、

聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、

すべての誉れと栄光は、世々に至るまで、

会衆 アーメン。

「神の栄光への賛美が表され、会衆は応唱「アーメン」によってこれを確認して結ぶ」。(「ローマ・ミサ典礼書の総則」79(h))

聖書の参照箇所

ローマ 11・36 「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン。」

エフェソ 2・18 「それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。」

⑦ 派遣の祝福

司祭 全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように。

会衆 アーメン。

『カトリック教会のカテキズム』より

1082 教会の典礼の中で、神の祝福は全面的に明らかにされ、伝えられます。すなわち、御父は創造と救いのすべての祝福の泉ならびに目的として認められ、礼拝されます。わたしたちのために人となり、死んで復活されたみことばにおいて、御父はわたしたちを祝福で満たし、みことばによって、わたしたちの心にすべてのたまもの最高のもの、聖霊を注がれます。

2626 祝福とは、キリスト教の祈りの根底の動きを表すもので、神と人間とが出会うことです。祝福の祈りの中で、神の恵みとそれを受ける者の喜びとが呼応して一つになります。祝福の祈りは神の恵みに対する人間の応答です。神が祝福してくださるので、それに答えて、人間の心はすべての祝福の源であるかたを祝福することができるのです。

2627 次の二つの基本的な形がこの動きを表しています。一つは、聖霊に導かれキリストを通して御父に向かって上る祝福(わたしたちを祝福してくださる神をわたしたちが祝福します)であり、もう一つは、キリストを通して御父のもとからくだる聖霊の恵みを懇願すること(神がわたしたちを祝福してください)です。

3. 父と子と聖霊のわざである典礼

典礼の祈り方の基本…聖霊のうちに、キリストを通して、父へ

典礼の二つの側面

神から人へ：愛・恵み・祝福 → 「主は皆さんとともに。またあなたとともに。」

人から神へ：賛美・感謝・嘆願 → 「心を込めて神を仰ぎ、賛美と感謝をささげましょう。」

『カトリック教会のカテキズム要約(コンベンディウム)』より

221 御父はどのような意味で典礼の源泉であり目的ですか。

典礼の中で、わたしたちのために人となり、死んで復活された御子において、御父はわたしたちを祝福で満たし、わたしたちの心に聖霊を注がれます。同時に教会は、礼拝と賛美と感謝をもって御父をたたえ、その御子と聖霊のたまものを願い求めます。

222 典礼においてキリストの働きはどのようなものですか。

教会の典礼の中で、キリストはおもにご自分の過越の神秘を示し、実現されます。キリストは使徒たちに聖霊を与えながら、彼らとその後継者たちに、聖体のいけにえと諸秘跡によって救いのわざを行う権能をゆだねられました。このいけにえと諸秘跡の中で、キリストご自身が、ご自分の恵みをすべての時代の全世界の信者たちに分け与えるために働いておられます。

223 典礼において、聖霊は教会と関連してどのように働きますか。

典礼の中では、聖霊と教会との間にもっとも緊密な協力が行われます。聖霊は教会をキリストとの出会いに備え、信じる会衆にキリストを思い起こさせて示し、キリストの神秘を現在化し、実現します。教会をキリストのいのちと使命とに結びつけ、また教会の中で交わりのたまものを実らせます。

『カトリック教会のカテキズム』第2編「キリスト教の神秘を祝う」冒頭の第1項「聖三位一体のわざである典礼」(1077~1112)も参照。